



学校だより

児童数：630名（男：343名 女：287名）

学校教育目標 ◎かしこく ◎なかよく ◎たくましく ◎心ゆたかに



どんぶり

思いを伝える、言葉で伝える。

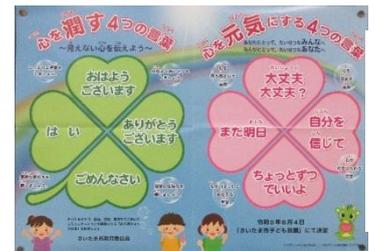
校長 戸野塚 晃

鈴虫、秋の長雨、秋の味覚、紅葉、秋晴れ・・・等々、秋を伝える日本古来の言葉はたくさんありますが、それを楽しんだり、堪能したり、体感したりする間もないままに、冬支度となった気がします。季節感のないことは情緒的な感性が薄らいでいくだけでなく、寒暖差に振り回されたり、食生活のリズムが乱されたりなど体調管理も難しくなります。地域の皆様、保護者の皆様も少しずつ日々の天候にリズムを合わせていただき、万全な体調で年末をお迎えください。

さて、二週間ほど前に、二回目の学校運営協議会（地域、保護者、PTA、有識者、学校関係者などから選出された10～15名程度の学校運営に意見を反映していただくメンバーで構成された協議会）が本校ブックワールドで開催されました。協議会の冒頭では教育委員会から配付されている教室掲示用の言葉の大切さを啓発するポスター（右下）の話から始まりました。本年度、言葉を大切にすることも含め、本校の教育活動の取組の一つとして「福祉の活動を通して尊重し合い、豊かな人間性を育む」という目標も掲げ、地道に取り組んでいるところです。念願であった大砂土デイサービスとの交流会も再開し、新たに立ち上げたふれあい委員会の「笑顔を増やそうプロジェクト」も始まりました。こうした取り組みを毎年しっかり積み重ねていくことで、豊かな人間性の育成にも繋がると考えます。



学校運営協議会
ランドデザイン



教育委員会からの
啓発ポスター

さらに、こうした心の育成にアプローチしていく取組と並行して、授業ではICT機器の活用が推進され、デジタル化された授業教材が増えていくことで、多くの教育活動が現在より効率的に準備・計画されていくことは間違いありません。そのような取組の中で、わざわざ文字で文章化して伝えていくこと、言葉に表現してお互いがコミュニケーションを図ること、そうした場面も少しずつですが減少していく可能性も考えられます。ですが、どれほど利便性が追求された将来の教育現場であっても、人間同士が言葉で伝えあう場面が全くなくなるということはないと考えています。お気づきの方もいらっしゃると思いますが、言葉にはその言葉の意味そのものだけでなく、もう一つ、言葉を発出した人の「感情や思いや人間性」が反映されています。切り取られた画面から出された言葉にはその人の思いや人間性は伝わりにくいでしょうが、直接、顔を突き合わせて会話した言葉には、その人の込められた思いを感じ取ることができます。冒頭で紹介させていただいたポスターのように言葉一つで心が潤い、言葉一つで心が元気になるのは、言葉に込められた思いが届くことによる会話のキャッチボールが成立するからではないでしょうか。まして、それにより、会話したお互いの心が潤うならなおさらです。そこには、大きな行事やプロジェクト以前に、豊かな人間性を育む基盤が育っていると言えるでしょう。

先日の全校朝会の中で、各学級において、言葉を大切にしている取組を全校児童に紹介しました。この紙面にもいくつか事例を挙げさせていただきます。

気持ちは言葉（手話も同様）に出さないと伝わりません。

そして言葉は、気持ちと人間性も伝えます。

心が潤う言葉が飛び交う、そこから豊かな心が育つ学校運営を目指します。引き続きの地域、保護者の皆様のご支援、ご協力をよろしく願いたします。

